



世界の ミカタタイムズ



発行：学校から世界のミカタを考える会

信じて頼れるナカマが身の回りにいますか？不安を感じたら仲間を探そう。

「教師海外研修実践授業報告会」に参加して ～研修プログラム作成の難しさ～

2月は定例会の代わりにJICA九州が主催している開発途上国への教員の視察派遣事業の一環である「実践授業報告会」に団体メンバーで参加してきました。

端的に説明をすると、【国際協力の現場を目の当たりにして帰ってきて日本の教育現場で国際理解教育実践をるところまでがセットになっている事業】で今回はそれぞれの先生が帰国後に実施した授業の報告会でした。各先生に割り当てられた時間はなんと10分！という罰ゲームのような条件ではありましたが、さすが現場の先生方はほとんど時間内で発表をされていました。しかし、今一步踏み込んだ話が聞けなかったのは時間設定がイベント主催者の都合で作られていることが原因と考えられます。参加者のための企画を考えていても、気づいたら主催者視点でデザインをしてしまうというのはこのようなイベントだけでなく、開発の世界でもありがちな落とし穴です。当会も主催者、あるいは協力者としてイベント等を企画運営をすることがよくあるのですが、参加者として体験しなければ見えてこないことがあると再確認しました。今後も積極的に様々な学びの場に出席したいと思います。

昼食後は松本亜樹氏をファシリテーターに開発教育実践の一つとして、カラーワークショップを体験しました。色を塗って、自分自身と向き合って...国際理解教育とは関係がなさそうなワークショップが続いた後に、ファシリテーターからわたされたのは同じワークショップを開発途上国でやった時の参加者の答えでした。

事前に「これは開発途上国でも実施したプログラムです」といって進行するのと、一通りワークショップを経験してから、「実は同じプログラムを...」と展開するのは同じではないですね。という問いかけは、海外から帰ってきて「伝えたい」思いを抱えている先生たちの今後の実践のヒントになるのではないかと思います。

また、「開発教育を突き詰めると『コミュニケーション』の問題にぶつかる」という松本氏の発言には当会としても非常に賛同できると参加者で実施後に振り返りました。

そこで、これまでも何度となくコミュニケーション関係のワークショップやセミナーは開催してきましたが、3月25日に春休み拡大版のワークショップを実施することにしました。詳細についてホームページ、SNSなどでご確認の上、ぜひご参加ください。

はまつグローバルフェア
に参加してきました。

タコを食べないモリタ漁師

こんにちは！いつもはグローバルママ日記担当のちなつです。今月はこちらのコーナーで、2月11日に静岡県浜松市で行われた「はまつグローバルフェア」の様態をレポートします！

何を隠そうこの私、以前はこのイベントの運営側だったんです。今回は娘と一緒に初めて客側で参加したのですが、立場が変わると違う世界が見え、面白かったです。

今年で8回目を迎えた「はまつグローバルフェア」ですが、浜松国際交流協会とJICA中部、はまつ国際理解教育ネットワークが3者共催で実施しています。そして、それぞれの団体の特色がうまく合わさりあい生きているんです！

ところで、浜松のイメージって何かありますか？えっ？浜名湖？家康？うなぎ？！なかなか詳しいですね。しかし今回取り上げたいのはちょっと違います。実は浜松はブラジル人をはじめとした外国人の集住都市として知られています。国際色豊かな地域は、まさに国際的なお祭りをするための素材の宝庫です。

今年もメインゲストのサヘル・ローズさんによる講演「外国人として日本で生きていく」をはじめ、イスラム圏の様子を伝える講演会、間伐材を使用した積木で遊ぶコーナー、世界の民族衣装体験、世界の音楽やダンス、料理、ブラジルからの移民をテーマとしたパネル展、フェアトレードグッズを使った工作コーナー、国際協力相談コーナー、グローバルマーケット、世界と日本の子どもと一緒に描き上げた巨大アートの展示など様々な企画が用意されていました。多文化共生や国際支援、環境教育、異文化理解、国際交流など多様な取り組みを一つの間で見ることができ私の頭の処理が追いつかないくらい充実した内容でした。

「国際理解教育」の話はどこにあるの？！と思われた方もいるかもしれませんが、このようなインプット（学び）の場があって、初めてアウトプット（教育）ができると私は考えています。



今月の写真

ここはどこでしょう？



月面ではありません。

ホームページ上の画像は拡大できます。
バックナンバーと合わせてどうぞ。
「世界のミカタを考える会」で検索！

ブラックです。今回はこちらのコーナーを担当させていただきます。昨年の夏に息子が生まれ、わが子の成長に目を細める日々を送っています。我が子ができると途端に子ども関係の話が気になります。こんな話を知ってますか？『新生児のおよそ1000人に1人は生後1か月を迎えることができない』あ、そんな国もあるんだ。って思いました？これは日本の話です。ちなみに日本の50倍以上の新生児が亡くなる国もあります。息子は間もなく生後7か月を迎えます。この「ありがとう」に感謝すると同時に、いつかはこの「ありがとう」を自分で感じられる子に育ててほしいと思います。

ブラックパパの
グローバル子育て日記

